

3 音声知覚の運動理論に基づくリスニング指導

廣瀬浩二

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : リスニング, 音声変化, 口頭練習

はじめに

音声知覚の運動理論 (motor theory of speech perception) は, 言語音の知覚において, 聞き手はインプットと平行して, 自ら音声生成 (発音) をしており, その生成音声と入力音声とを比較照合することによって音声知覚が行われる (Liberman & Mattingly, 1985), という理論である. この理論は, Wilson, Saygin, Sereno, and Iacoboni (2004) の脳実験研究によって支持された.

この理論に従うと, 特定の英語音の発音は, その音声を聞き手が実際に発音できることが, それらの音声知覚のための前提となる. 言い換えれば, 発音できない音は聞き取りもできないことを示唆している. これは単に一つの音素だけでなく文についてもいえるであろう.

本研究では, 学習者に発音練習と文のオーバーラッピング (英文を見ながらモデル音を聞き, 音読する) の練習をさせることによって, リスニング力の向上を試みた.

対象および方法

対象: 歯科衛生士学科 1 年生 45 名

方法: 日本語にはない「強勢のないところの母音 (弱母音 [ə])」の音の聞き取りを行う. その後, オーバーラッピングの手法を使って口頭練習を行う. 聞き取り及び口頭練習を行った単語は, 以下の通りである.

has, of, them, as, that, some, should, us, away, the, alike

結果および考察

「強勢のないところの母音」の聞き取り結果は表 1 の通りである.

has は, ここでは助動詞として使用されており, [h] 音が落ちている. As a matter of fact の語連続における of は, 次に来る [f] 音と一緒にいる. of everyone の語連続における of は, [v]+母音で, 連

結現象を起こしている. them, us は人称代名詞で, 通常, 前方照応で使用される. 文脈中では, 意味的处理によってこれらの単語は捉えられると思われる. that は, 機能語である接続詞と関係代名詞が弱く発音される. ここでは接続詞であった. some は, [sm] のようになりに変化していた. away は, got away の語連続で, 連結現象が起こっていた.

表 1 正答数の推移 (n=45)

単語	1 回	2 回	3 回
has	1	11	28
of	1	6	28
of	4	9	26
them	0	2	14
as	23	29	37
that	4	7	14
some	1	5	16
should	34	39	42
us	2	5	18
away	1	18	23
the	3	12	17
alike	0	15	34

今後は, 以下の音についても指導予定である.
機能語の弱形 (I gave her [ər] a [ə] call.)
連結 (子音 + 母音 I got a kick out of it.)
同化 (子音の有声化 Check it out.)

参考文献

- 1) Liberman, A. M. and Mattingly, I. G.: The Motor Theory of Speech Perception Revised. Cognition, 21:1-36, 1985
- 2) Wilson, S. M., Saygin, A. P., Sereno, M. I., and Iacoboni, M. : Listening to Speech Activates Motor Areas Involved in Speech Production. Nature Neuroscience, 7: 701-702, 2004